

参 考 手 本

空庭^た惟だ鳥の跡

鳥 空
跡 庭
惟

成
瀬
映
山
先
生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

霜月冬氣潔し
そうげつとうきいさぎよ

霜 月 冬 氣 潔

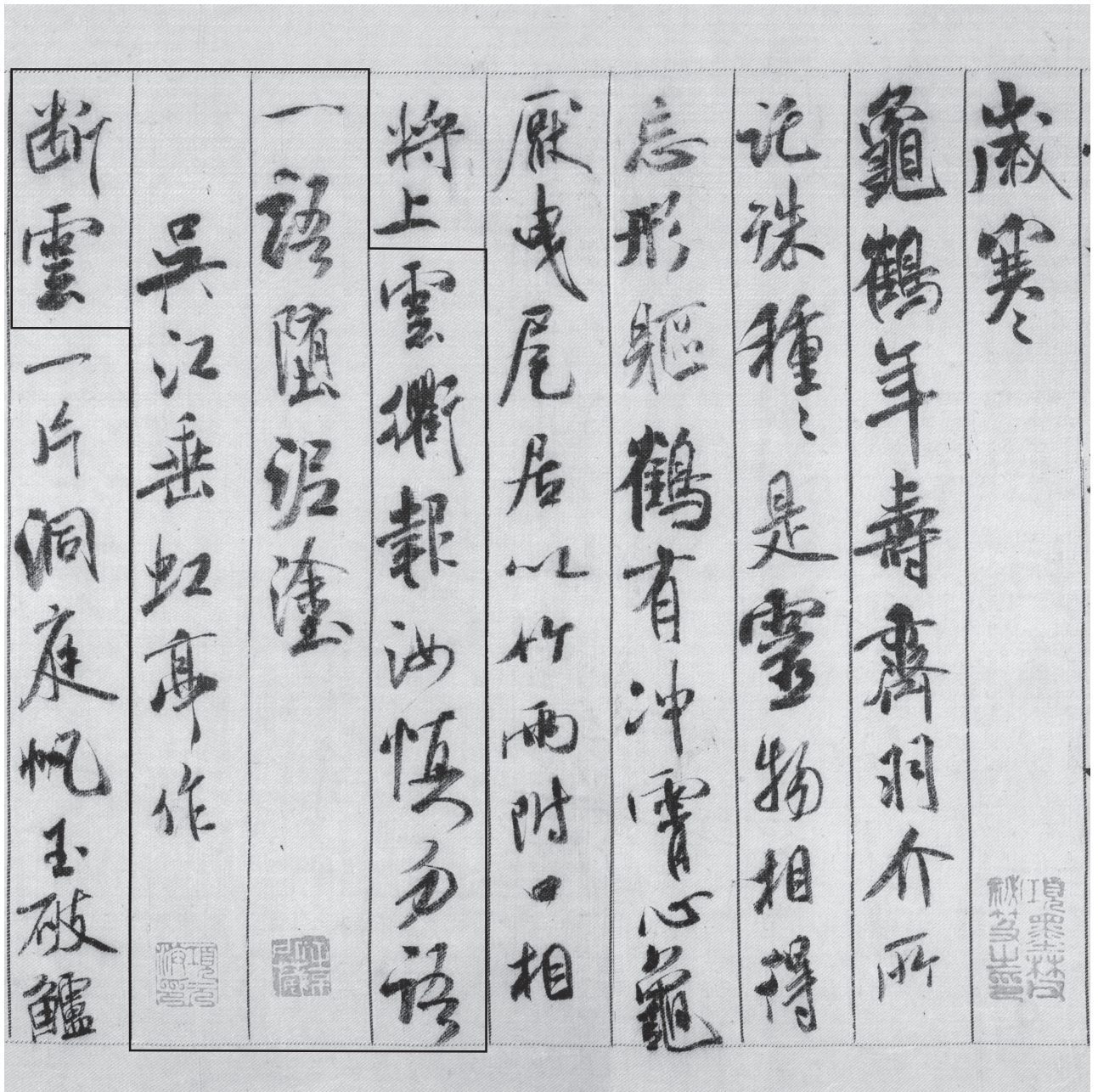
高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

条幅規定

A 部（準五段以上）

衢語



『蜀素帖』 米芾（宋）

（安得保） 歲寒。 龜鶴年壽齊。

羽介所託殊。 種種是靈物。

相得忘形軀。 鶴有冲霄心。

龜厭曳尾居。 以竹兩附口。

相將上雲衢。 報汝慎勿語。

一語墮泥塗。

吳江垂虹亭作

斷雲一片洞庭帆玉破鱸

安んぞ歲寒を保つを得んや

龜鶴年壽齊しきも

羽介託する所殊なる

種々是れ靈物

相い得んや形軀を忘るるを

鶴には有り冲霄の心

龜は厭う曳尾の居

竹を以て兩に口に附し

相い將いて雲衢に上る

汝に報ず慎んで語る勿かれ

一たび語れば泥塗に墮ちん

吳江垂虹亭の作

斷雲一片洞庭の帆玉は鱸魚を破り

【今月の課題】

「雲衢報汝慎勿語一語墮

泥塗吳江垂虹亭作斷雲」

（20字）

（この課題を同月の条幅随意には出品出来ません）

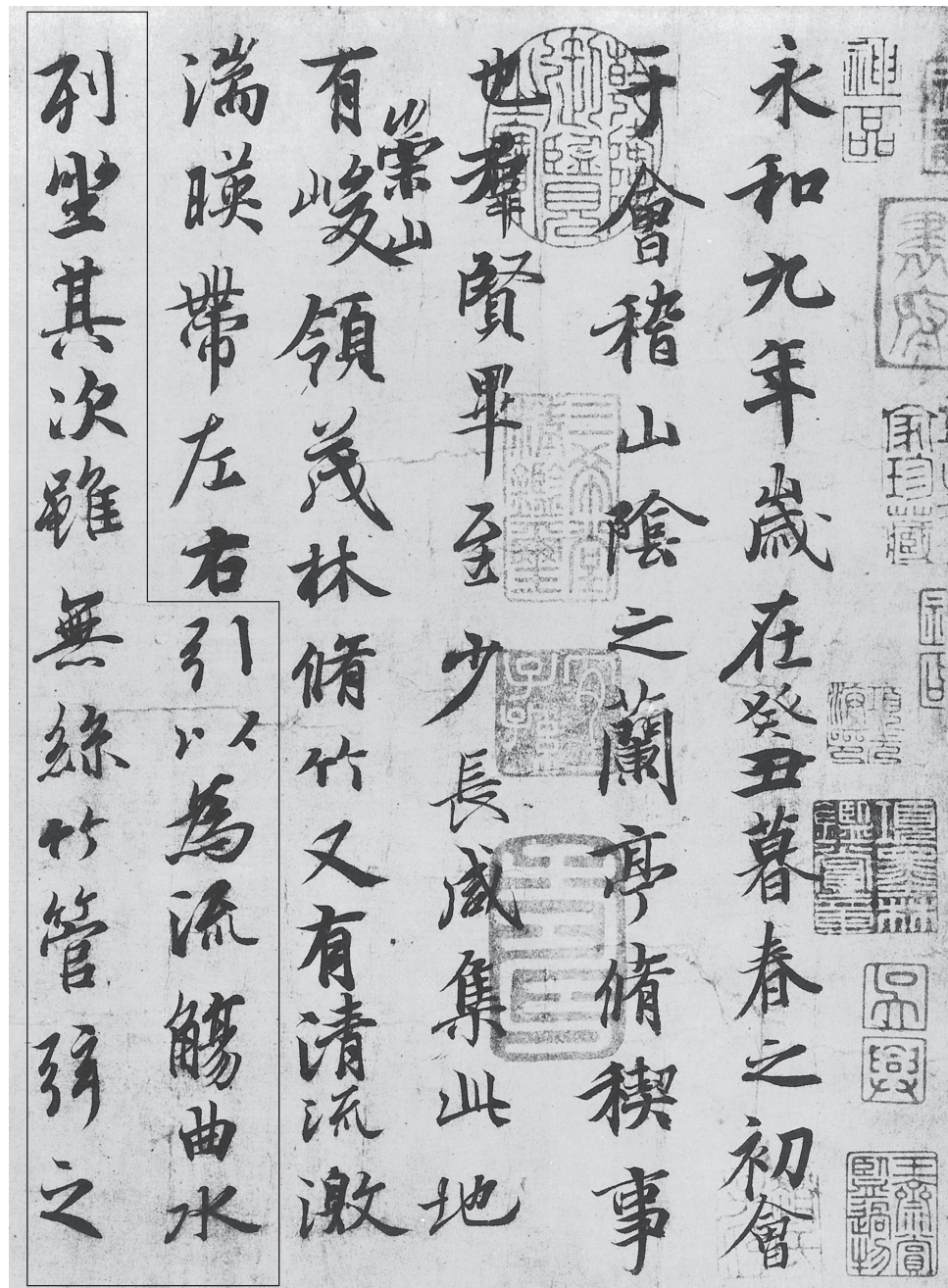
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（11月10日締切）

条 幅 規 定

B 部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



永和九年 歲在癸丑 暮春之初 會
于會稽山陰之蘭亭 脩禊事
也 羣賢畢至 少長咸集 此地
有崇山峻嶺 茂林脩竹 又有清流激
湍 映帶左右 引以為流觴曲水
列坐其次 雖無絲竹管弦之

永和九年。歲は癸丑に在り。暮春の
初め、會稽山陰の蘭亭に會す。禊事
を脩むるなり。群賢畢く至り、少長
咸な集まる。此の地崇山峻嶺、茂
林脩竹有り、又た清流激湍有り
て、左右に映帶す。引いて以て流
觴曲水を為し、其の次に列坐す。
絲竹管弦の盛無しと雖も、

【今月の課題】

「引以為流觴曲水列坐其
次雖無絲竹管弦之」

(18字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(11月10日締切)

曹全碑（漢・作者不詳）

扶風隄麋侯

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

扶風隄麋侯

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

玄符天子令

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

玄符、天子の令徳にして、

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（11月10日締切）

条幅参考手本

故園渺何處歸思方悠哉
淮南秋雨夜高齋聞雁來

江華書

細野江華先生

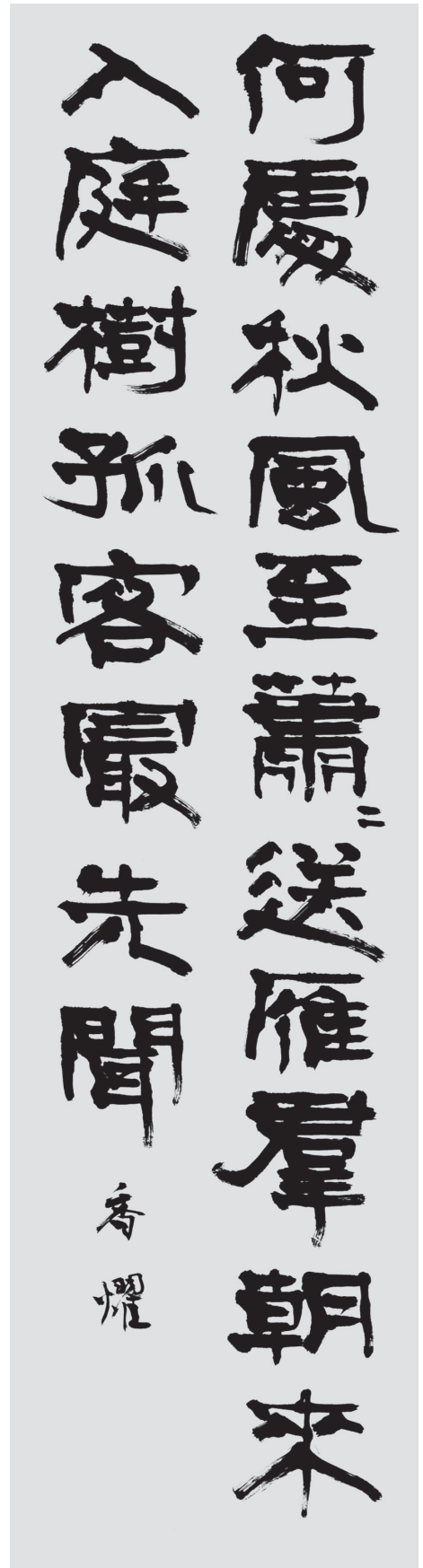
故園渺何處 歸思方悠哉 淮南秋雨夜 高齋聞雁來
故園渺として何れの處ぞ 歸思方に悠なる哉 淮南秋雨の夜 高齋雁の来るを聞く

朝平霞山先生

到來鐘磬寂 坐久主賓忘
澗底皆秋氣 林梢半夕陽

到來鐘磬寂 坐久主賓忘 澗底皆秋氣 林梢半夕陽
到來すれば鐘磬寂し 坐久しくして主賓忘る 澗底皆秋氣 林梢半ば夕陽

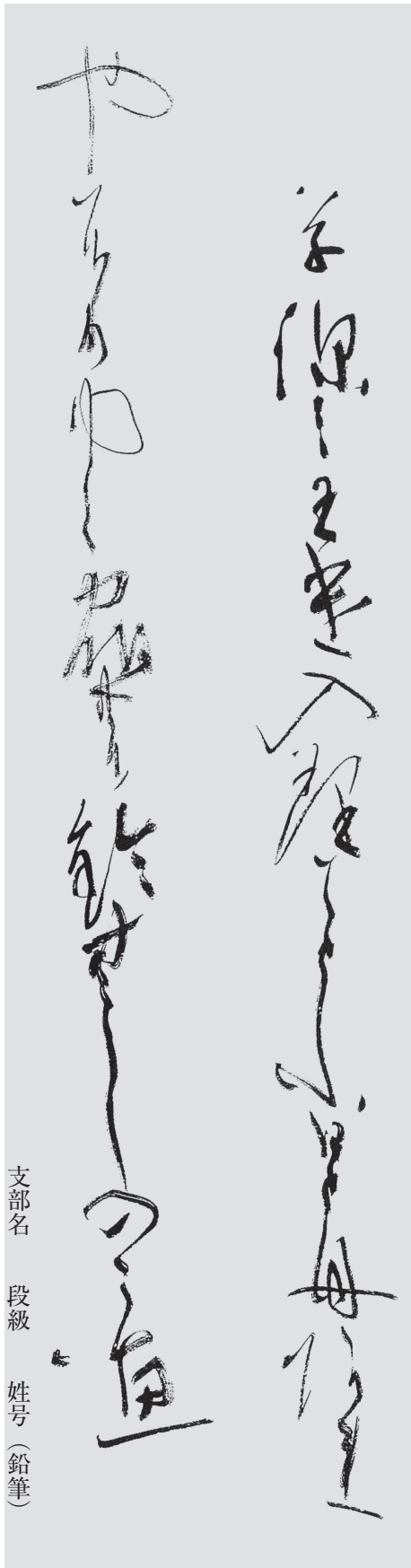
条幅参考手本



片桐香燿先生

何處秋風至 蕭蕭送雁羣 朝來入庭樹 孤客最先聞
何れの處よりか秋風至る 蕭蕭として雁羣を送る 朝來庭樹に入る 孤客最も先に聞く

条幅かな



浮乗清郷先生

草深み分け入りてとふ人もあれやふりゆく宿の鈴虫の声 (西行)
くさふか わ い ひと 日と母阿連 不利 農 無し こ恵

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆)

(11月10日締切)

半紙かな（１級以下）

雁の声のしばらく空に満ち（高野素十）
かりがね こゑのしばらくそらにみち

支部名 級 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

雁の声のしばらく空に満ち

古田葉子先生

庵にもる月の影こそ淋しけれ山田は引板のおとばかりして（西行）
いは 二 つきかげ さび やまだ ひた おとばかりして

※ちらし文字変換は自由

支部名 段 姓 号（鉛筆）

庵にもる月の影こそ淋しけれ山田は引板のおとばかりして

浮乗清郷先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（11月10日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

落ち葉が冷たい風に舞い、街は
静かに冬の文度と始めています。
澄んだ夜空には、きらめく星が
美しい季節です。
文部 名 綴 級 始 号

鈴木 恵 先生

(11月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より

P52

主幹 菅野 翠濤

墨森山脉連峰湛沼
墨森山脉連峰湛沼
墨森山脉連峰湛沼
墨森山脉連峰湛沼

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

湛たん
沼しやう
沼に水をたたえること。

(11月10日締切)

硬筆（１級以下）

2行、楷書

夕暮れの街に涼しい風が吹き、家
路を急ぐ影が伸びてゆく。
支部名 級 姓 号

渡 邊 南 嶂 先 生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

紅葉が少しずつ山を染めていき、
緑から赤へ静かな移ろいが美し
い。自然は黙って変わっていく。
支部名 姓 号

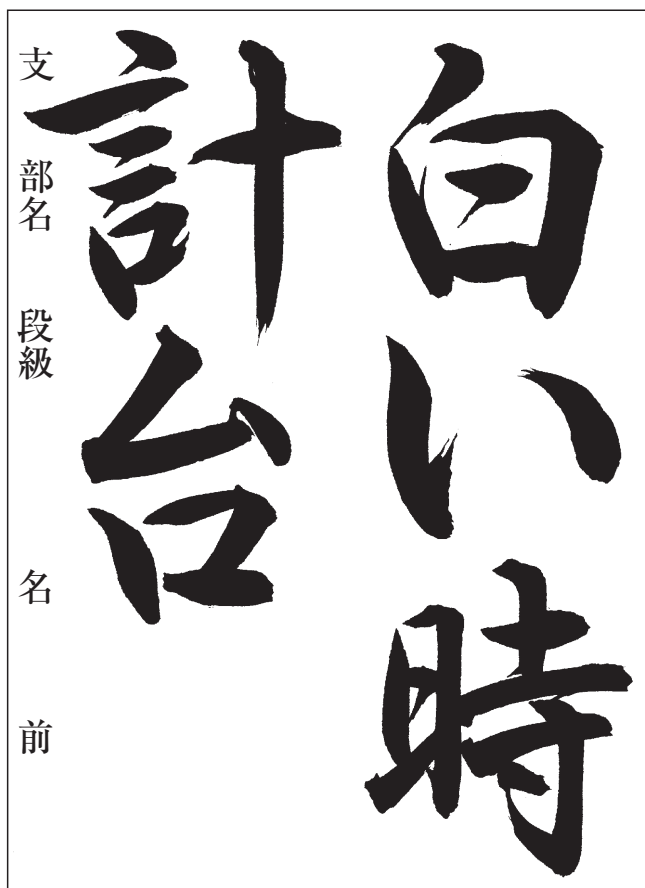
山…緑…赤…黙…変…。

青 柳 江 雲 先 生

※本院定型用紙・たて半分に書く

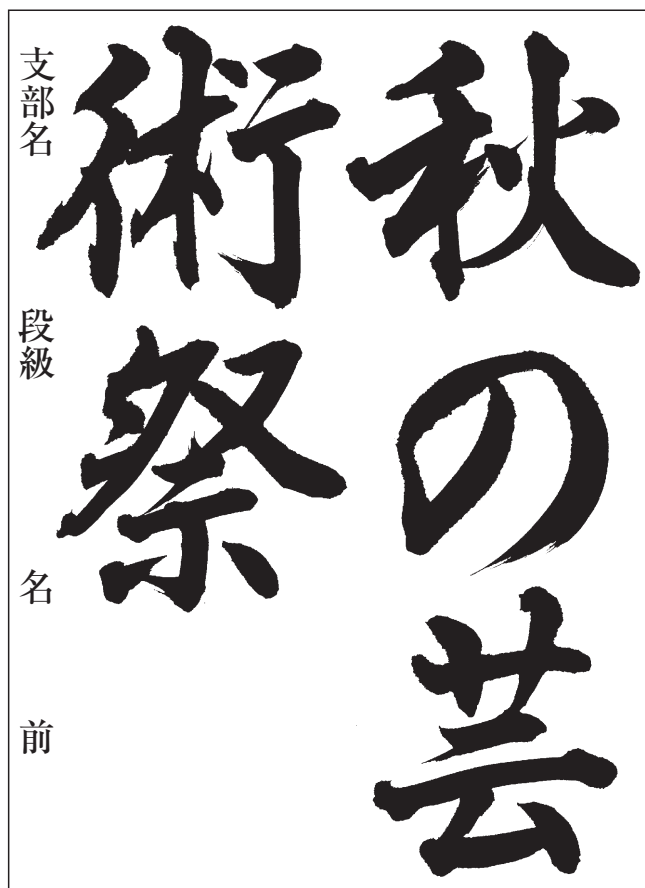
(11月10日締切)

中2用



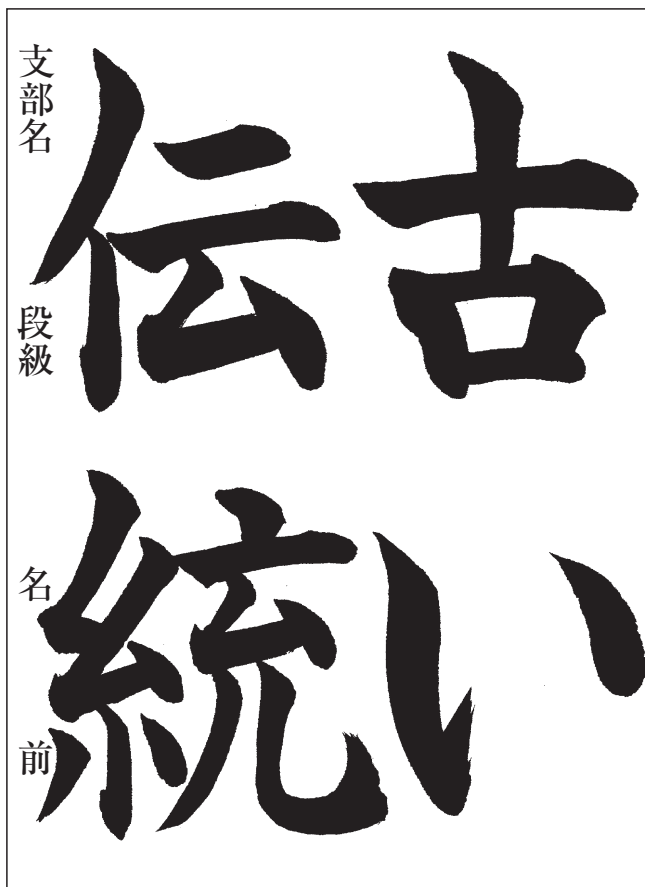
渡
邊
南
嶂
先
生

中3用



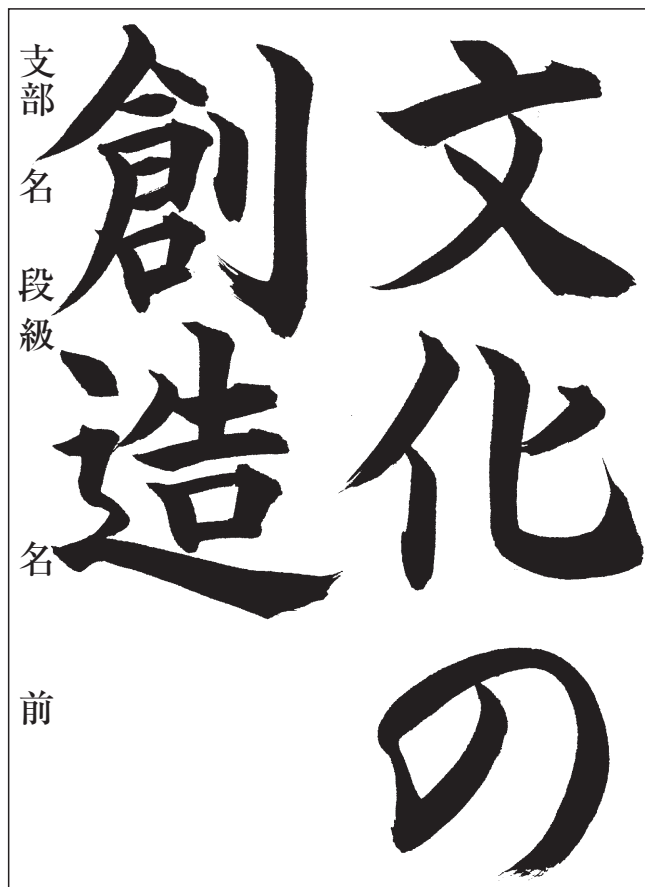
大
越
三
宗
先
生

小6用



渡
邊
南
嶂
先
生

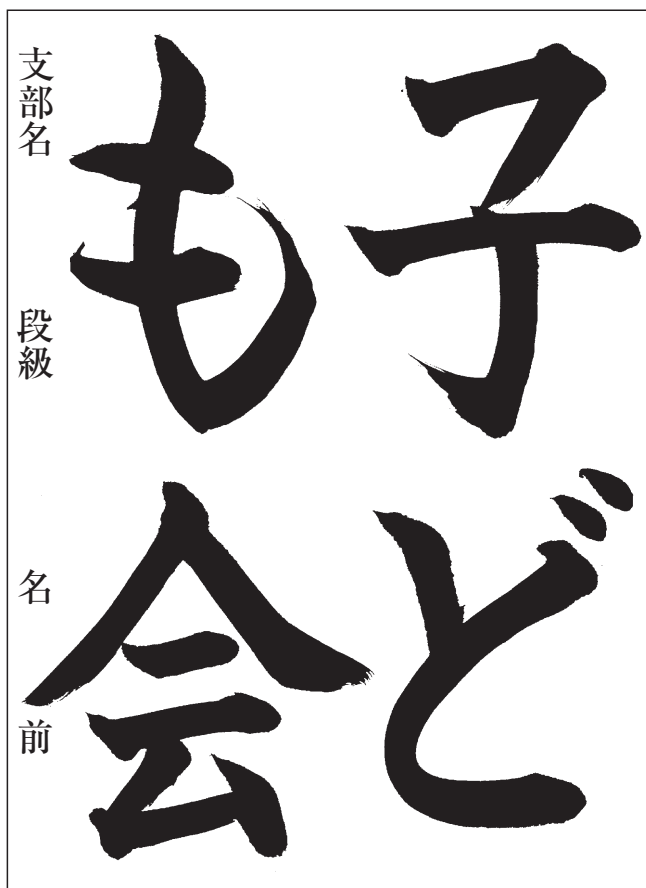
中1用



渡
邊
南
嶂
先
生

(11月10日締切)

小4用



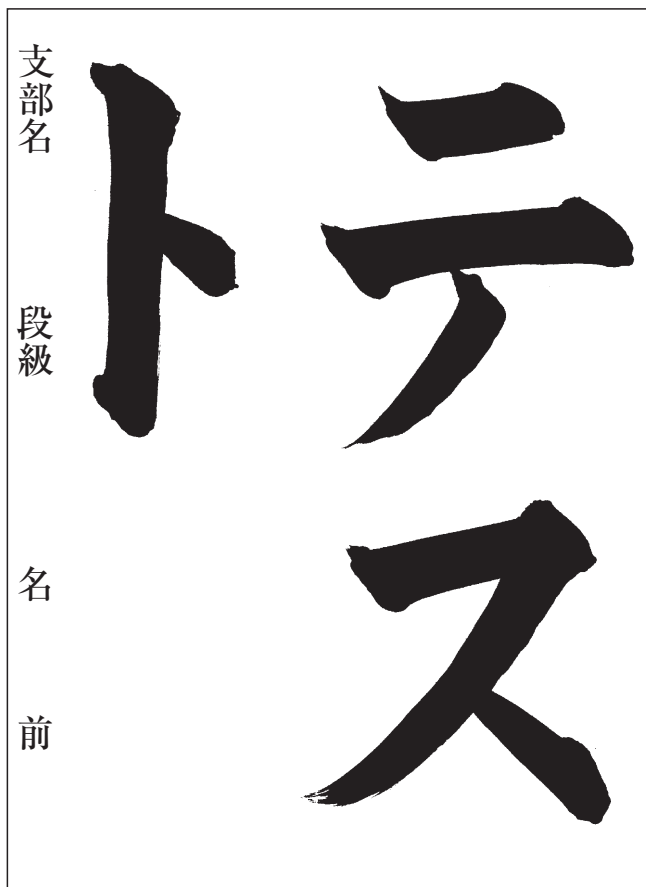
大越三宗先生

小5用



大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

(11月10日締切)

中1

日本の四季では、秋が一番美しく感じられる。

中1～中3

中2

十月は、暑くも寒くもない。過ごしやすい季節。

青柳江

中3

星空を見上げて、広大な宇宙の神秘を思う。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

さが

鈴木 恵 先生

小1・幼年

そらは、あおく、くもひとつない。

小1～小3

小2

白いくもが、あきの空にうかんでいた。

田邊翠

小3

夕日が西の山を赤くそめてしずみます。

鶴先生

小4

山の木が色づき、秋もいよいよ深まった。

小4～小6

小5

昨夜の雨が残した水たまりに、光がきらめく。

齊藤 翫

小6

晴れ後くもり。秋の空は変わりやすい気候だ。

流先生

(11月10日締切)

小学部小筆課題

支部名		主 幹
段 級		菅 野 翠 濤
名	赤とんぼの 大行進	
前		

中学部かな課題

支部名		船 久 保 棠 苑 先 生
段 級		
名	雲の先やうり 秋の ふるさと は くれ	
前		

※半紙半分に書いて下さい。 (11月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

12月10日締切課題予告

A部条幅規定 一片洞庭帆玉破鱸魚霜破柑好作新詩繼桑亭垂

B部条幅規定 盛一觴一詠亦足以暢叙幽情是日也天朗氣

かな条幅規定 月をおもふあきのなごりのゆふぐれにこかげふきはらふ山嵐のかぜ (前大僧正慈円)

半紙規定 (初段以上) 相金城西部 半紙規定 (一級以下) 徳豊臣之末

半紙かな (初段以上) 白妙の衣かさぬる月かげのさゆる眞袖にかゝる白露 (西行)

半紙かな (一級以下) 行く秋の鶴に似る雲切通し (鍵和田裕氏釉子)

実用文 木々が鮮やかに染まり、行く秋の惜しまれる頃となりました。

朝晩は冷え込みますので、どうぞご自愛ください。

一般硬筆 (初段以上) 集中して書く時間が心を静かに整えてくれる。書道は現代の忙し

さから離れる贅沢だ。

一般硬筆 (一級以下) 澄んだ夜空に星が瞬きだし、北風が冬の訪れを告げている。

12月10日締切課題学生部課題予告

中三毛筆 遠山の雪景

中三硬筆 登場人物の気持ちを理解しながら物語を読む。

中二毛筆 新雪の連山

中二硬筆 紅葉の名所は、山地の溪谷や湖畔などに多い。

中一毛筆 美しい星空

中一硬筆 不断の努力ですばらしい記録を樹立したのだ。

小六毛筆 宇宙の旅

小六硬筆 この料理は、野菜も肉も入って栄養たっぷり。

小五毛筆 初冬の空

小五硬筆 校庭のいちようが、金色にかがやく季節です。

小四毛筆 美しい月

小四硬筆 急に寒くなってきた。みんな元気ですか。

小三毛筆 冬のそら

小三硬筆 強い北風が、ヒューと、うなっています。

小二毛筆 ピエロ

小二硬筆 おちばを一まい本のあいだにはさみました。

小一毛筆 ゆき

小一硬筆 おばあちゃんは、あささんぽをします。

中学部かな うつぶして雪にしづめる梢かな

小学部小筆 寒い空 北風ふく